2019 年度実施概要

学校名

三重中学校・三重高等学校

採択活動名

地元の海を広い視点で知り・知ってもらう

取り組みの概要

・中学 1 年：海の学校[概要：松名瀬干潟に関して，『自然科学の三重大学の研究者（潟湖干潟の生物(カニ・ウミニナ類等)の採集および生態)』・『漁業者（アサリ漁および栽培漁業の話)』・『浜茶屋について』・『ボランティア』・『海の博物館の学芸員（砕波帯ネットを使った生物採集および干潟は海のゆりかごの話)』・『県の生物多様性担当（干潟と海浜における 3 つのレベルの生物多様性を学ぶ)』といった違う立場の人から，地元松名瀬海岸の素晴らしさ学ぶ機会を設定し，1 日実習を行い，海浜清掃も行った。] その実習の授業の前に，理科・社会・道徳・総合的な探究の時間・道徳を用い，事前授業を行い，地元の干潟の利用の変遷，当日学ぶべき視点，安全に活動するための集団訓練を行った。また，学んだ内容を確認し定着させるべく事後指導を行った。また，参加した生徒のうち 30 名を選抜し（学園祭に向けて，学年で数個の取り組みの中から 1 つ選抜をさせる)，実習で学んだ事をまとめ，9 月に行う学園祭当日に来場者に向けてプレゼンテーションを行った。教員はカリキュラムおよび指導案をつくった。

・中学 3 年：総合的探究，5 月に修学旅行で愛媛大学を訪問した。その際に，有機スズをはじめとする環境ホルモンについて愛媛大学沿岸環境科学研究センターの先生の講演および，実験室の見学，サンプルの冷凍保存庫および大学の博物館での学習を実施した。実際この講座を選択し受講した生徒は 30 名であるがこれに向けて学年全体に対して授業での取り組みを行っており，事前指導および事後に参加者による報告会を行った。

・高校 1 年：生物基礎の授業で生態系に関して学ぶ際に，東京大学演習林・上越教育大学等と本校の教員で科研の研究で行っている『緑のダム効果の実験(探究学習)』を行った。各自で実験を行うとともに、東京大学演習林・上越教育大学の先生方を招聘し、発表会も行った。

・高校 1～2 年：総合的探究，高校 1 年生の秋の遠足をきっかけに，森林で有名な旧宮川村について地域の方々と生徒自身が交渉をしながら地域の探究学習を行った。その際に，事前学習として 3 つの講演会を行い，海にとって森の大切さを学んだ。

・科学部（中高)：三重大学木村妙子教授の指導を受け，松名瀬干潟の 3 つの型別の生物相の分布，経月変動および適宜研究の中で見つかった疑問について調査を計画し，実際調査を行い，データをまとめた。経月変動の調査以外の予定としては，『アマモの調査』・『ウミニナ類の移動調査(継続)』を実施した。その成果を、環境省等主催の「第 54 回全国野生生物保護実績発表大会」にて発表をし、文部科学大臣賞を受賞。また、海の宝アカデミックコンテストにおいて三席となるチョウチンアンコウ賞を受賞。アマモサミットでの参加し発表するなど外部での発表も行った。

・生徒会（中高)：地元および三重大学，本校の科学技術部や美化委員会と協力して松名瀬干潟の清掃活動・環境教育活動を自治活動として、トヨタ・ソーシャル・フェスを活用し、実施した。

・教員：カリキュラムマネージメントを行った。生徒の取り組みについて助言や議論をした。その成果を日本生物教育学会および日本森林学会(コロナウイルスの関係で要旨のみ)で発表を行った。

活動中の写真

デジタルデータにて 2〜3 枚の添付をお願いします。

実施単元名　※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 海の学校事前学習　〜松名瀬ってどんなところ？〜